

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 5 月 7 日現在

機関番号：24301
研究種目：基盤研究(C) (一般)
研究期間：2018～2023
課題番号：18K00129
研究課題名(和文)「ディアスポラ」を離れたアルゼンチン・ユダヤ音楽家に関する民族音楽学的研究

研究課題名(英文)The Ethnomusicological Study of Argentine Jewish Musicians who Left the "Diaspora"

研究代表者
川端 美都子 (Kawabata, Mitsuko)
京都市立芸術大学・音楽学部・教授

研究者番号：20749858
交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、ディアスポラや故郷と呼ばれる場・概念を往来するアルゼンチン・ユダヤ音楽家たちの活動を追うことで、音楽のなかでこの両概念がどのように相互可変するのか、またその際のメディアの役割について考えるものであった。このような音楽家らによる音楽実践の現場で参与観察を行い、彼/彼女らによる音楽表現やそこに至る過程を分析した。また、音楽とディアスポラ・故郷観との関係を探るためにインタビューを実施・分析した。これにより、物理/バーチャルをまたがるハイブリッドな現実のなかで、多様な音楽ジャンルが混ざった音楽演奏は創造性や帰属意識と関わっているだけではなく、政治的・経済的理由とも結びついている様を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

物理的にも観念的にもディアスポラと故郷の間を移動するアルゼンチン＝ユダヤ音楽家の音楽実践・表現を追うことで、どのような音楽がハイブリッド化されているのか、またそれがメディアを通してどのように自身のネットワークで共有されているのかについて考察してきた。さらに、その混成の取捨選択が、複数の境界(宗教、民族、言語、政治)をまたぐ音楽家たちにとって、単なる帰属意識や創造性の問題ではなく、個人的アジェンダやコンフリクトの回避という意味を持つことについても明らかにした。これにより、オフラインとオンラインをまたぐハイブリッドな現実のなかで、音楽による差異の克服という可能性を拓く試みとなった。

研究成果の概要(英文)：Exploring the activities of Argentine-Jewish musicians who traverse both physically and conceptually between diaspora and homeland, this project delved into the mutability of these two concepts in music and the role of the media in shaping such mutability. I engaged in participant-observation of the musical practices of these musicians, analyzing their musical expressions and the music-making processes. Additionally, I conducted interviews to explore the relationship between music and their perspectives on diaspora and hometown. I concluded that in the hybrid reality (physical/virtual), their hybridized musical performance is not only related to creativity and a sense of belonging but also connected to political and economic factors

研究分野：民族音楽学

キーワード：メディアスポラ 民族音楽学 ホーム ディアスポラ アルゼンチン＝ユダヤ

1. 研究開始当初の背景

これまで「離散(地)」を意味する「ディアスポラ」の概念は、慣例的に故郷の対概念として捉えられることが多かった。社会学者の Manuel Castells が *The Internet Galaxy* (2002) で指摘しているように、近年のトランスナショナル研究では、ディアスポラと故郷という対概念は、グローバル化の拡大により消滅したという見解を示すものもある。インターネットの普及により、人々の帰属意識が土地固有の「共同体」からグローバル・ネットワークへと移行してきたからである。これは、ディアスポラとは、もはや特定の地理的位置へと固定されるものではなくてきたことを意味する。2001年頃のデフォルト後、アルゼンチンからは、第二次世界大戦後に新しい「ユダヤの故郷」となった米国への移民、あるいはイスラエルへの「帰還(aliyah)」を果たし、その移住先で音楽活動を行うユダヤ音楽家たちが現れた。このようなアルゼンチン・ユダヤ音楽家は、決して一つの物理的場所にとどまっているわけではない。移住先からアルゼンチンに戻って音楽活動を実施したり、その様子をソーシャル・メディアで公開したりするなど、物理的だけではなく、メディア上でも移動を続けている。しかし、このような複数の場を移動する音楽家たちの故郷観やディアスポラ観、あるいはその音楽がどのように音楽家たちの考えを表わしているのかについての研究は存在していなかった。

2. 研究の目的

2001年のデフォルト前後頃から、アルゼンチンからは5年間で約30万人が国外へと移民していった。同国のユダヤ音楽家もその例外ではない。彼(女)らは、「ディアスポラ」であり「故郷」でもあったアルゼンチンを去り、第二次世界大戦後に新しい「ユダヤの故郷」となったイスラエルや米国へと移民する。本研究では、このような移動するアルゼンチン・ユダヤ音楽家たちに焦点を当て、移民先やメディア上での音楽実践や表現を分析する。移動するアルゼンチン＝ユダヤ音楽家たちが、移住前の社会とどのように繋がりを保ちながら、移住先での民族・宗教・文化的差異を音楽によって乗り越えようとしているのかを考えることが本研究の中心である。具体的には以下の内容を目的としている。

3. 研究の方法

研究方法として、インタビューや参与観察を含む以下の民族誌的手法を用いている。

(1) 多重地域民族誌的手法(multi-sited ethnography)とフォローイング

本研究は、社会学者の George Marcus が発展させた「移動する民族誌」の異名を取る「多重地域民族誌的手法」を用いた。メディア上での活動を追うデジタル・エスノグラフィと、実際にイスラエルへと赴くフィールドワークとを組み合わせる予定であった。しかし、2年以上に渡る感染症拡大による影響と、最終年度の2023年に勃発したイスラエルとガザ地区の紛争により、渡航を断念せざるを得ない状況になった。そのため、主にオンラインでの調査と、初年度にアルゼンチン・ユダヤ音楽家を日本国内に誘致した際のデータを中心に研究を進めることになった。移動するアルゼンチン・ユダヤ音楽家たちの音楽実践の場に参加し、また自分自身も同じ演奏活動に参加することで、どのようにディアスポラ観と故郷観が音楽に体现されているのか、またそれが創造される過程について分析した。さらに、録音・録画したメディアを、アルゼンチン・ユダヤ音楽家たちと共に視聴しながら「フィードバック・インタビュー」を実施した。

(2) 民族誌データの分析

(1) 移民先でのアルゼンチン・ユダヤ音楽家の社会・経済的状况、(2) 演奏音楽ジャンル、(3) 使用楽器と言語、(4) 移民後の移動状況、(5) メディアを含む演奏脈絡、(6) 移民先と移民元における彼(女)らの音楽の受容状況、(7) 音楽家個人のディアスポラと故郷観を中心にインタビュー内容を分析した。

(3) 対話的編集(dialogic editing)と(デジタル)民族誌の作成、

インフォーマントたちと対話しながら民族誌を作成する文化人類学者・民族音楽学者の Steven Feld が提唱した、「対話的編集」を行った。インフォーマントたちとの協働的作業を通して、より詳細に、音楽家たちが音楽表現を通してさまざまな境界を越えていく様子を考察することを試みた。その際、ソーシャル・メディアを通じて、音楽表現について互いに考えを共有するように試みた。

4. 研究成果

研究の核となる成果は、以下の通りである。まず、ディアスポラと祖国を「移動」する、アルゼンチン・ユダヤ音楽家のイエフダ・グランツ Yehuda Glantz とマリエル・ピベン Mariel Piven と共に、実演を交えながら、立教大学ラテンアメリカ研究所、関西学院大学、大阪大学のような学術機関において、アルゼンチンにおけるユダヤ・コミュニティと音楽の特徴についてレクチャーを実施した。また、香川大学博物館の関連行事として、アルゼンチン大使館からの後援を得ながら、香川国際交流会館においても実演を交えたレクチャーも実施した。これらの成果の一部は、「現代のアルゼンチン・ユダヤ・コミュニティとその多様な音楽文化」という題目で、2018年度の『ラテンアメリカ研究所報第47号』に掲載されている。

また、令和元年7月にインディアナ大学大学院へと提出した博士論文"The Politics of Musical Hybridity in Buenos Aires: Jewish Music, Youth Culture, and Cultural Policy"で論じたアルゼンチン本国のユダヤ音楽家の活動と、「第二のユダヤの祖国」と呼ばれるアメリカ合衆国におけるアルゼンチン・ユダヤ音楽家の活動を比較するために、令和元年10月には、米国におけるアルゼンチン・ユダヤ・コミュニティに関する文献調査を行った。しかし同年度2月頃からの感染症拡大に伴い、国外での調査が困難となったため、オンラインでの調査・インタビューへの切り替えをよぎなくされることになった。

研究期間全体として、前半から中盤にかけては新型コロナウイルス感染症拡大、終盤にかけてはイスラエル＝ガザ戦争の勃発により、本研究の中核をなすフィールドワークの実施が非常に困難な状況に追い込まれた。一方で、物理的な移動が制限されたなかでは、観念上のディアスポラと故郷の逆転現象が起きたこと、またそれに伴う音楽表現の変化という新しい知見も得られた。これに基づき、2021年 Society for Ethnomusicology の全国大会(オンライン開催)における発表“Longing for “Home” in Japanese Popular Music Created during *sugomori* (Nesting): How We Go On Living after Dancing on the Inside”において、メディアスポラの構想についての試論を展開した。物理的移動の制限下、アルゼンチン・ユダヤ音楽家たちは、ソーシャル・メディア上での繋がりを保ちつつ、ディアスポラと故郷の両概念を相互可変的に音楽のなかで表しながら、オンライン上で活動を続けていた。現在、上記の政治的状况によりイスラエルへのユダヤ人の「帰還」は半減したほか、国内の3%のユダヤ人口が象徴的「故郷」であったイスラエルから離れている。アルゼンチン・ユダヤ音楽家も例外ではない。これに関しては、今後の研究課題の準備として経過を注視する予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Mitsuko Kawabata	4. 巻 -
2. 論文標題 The Politics of Musical Hybridity in Buenos Aires: Jewish Music, Youth Culture, and Cultural Policy	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Indiana University, Dissertation	6. 最初と最後の頁 1-299
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 川端美都子	4. 巻 47
2. 論文標題 現代のアルゼンチン・ユダヤ・コミュニティとその多様な音楽文化	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ラテンアメリカ研究所報	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 1件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Mitsuko Kawabata
2. 発表標題 Longing for 'Home' in Japanese Popular Music Created during Sugomori (Nesting): How We Go On Living after 'Dancing on the Inside
3. 学会等名 Society for Ethnomusicology（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 川端美都子
2. 発表標題 現代のアルゼンチン・ユダヤ・コミュニティとその多様な音楽文化
3. 学会等名 立教大学ラテンアメリカ研究所 第49回「現代のラテンアメリカ」（招待講演）
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

2018年11月3日ミュージアム・レクチャー「アルゼンチンー都市と地方の暮らしと音楽 - 」於香川大学博物館
2018年11月15日レクチャー・コンサート「アルゼンチンにおけるユダヤ・コミュニティと音楽文化」於公益財団法人香川県国際交流協会
2018年11月20日レクチャー・コンサート「アルゼンチンから響くイスラエルの音」於大阪大学

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------